



国際ロータリー第2680地区
Rotary
加古川ロータリークラブ



Weekly Reports 2024-2025

2024-25年度 RI会長:ステファニー A. アーチック地区ガバナー:矢坂 誠徳
加古川ロータリークラブ会長:大庫 隆夫 / 幹事:山本 亜也夫
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和7年3月18日(火) No. 32



▲会長挨拶

▲釜谷直前会長乾杯挨拶

▲松尾副会長閉会挨拶

会長の時間

会長 大庫 隆夫

第二十九回 国際商取引は紀元前の大昔から 多言語併用貨幣の出現。

紀元前百一年、漢の武帝が汗血馬を求めて大宛(ウズベキスタン共和国フェルガナ)を征服、これによりタクラマカン、ゴビ砂漠を遥かに越えるシルクロード交易が始まりました。民族も言葉も違う国同士の交易の為に両国で理解出来る多言語が刻された貨幣が生まれたのです。

和田はタクラマカン砂漠のオアシス都市国家ホータン王国のこと。(今は中華人民共和国新疆ウイグル自治区)古くは于闐と称されたシルクロード西域南道の要衝でした。漢に従うか、匈奴に従うか、東西の交易で栄えたオアシス都市国家でした。漢字とカロシュティー文字の二つの言語が使われている貨幣で馬が描かれていることからホータンの馬銭と呼ばれる珍銭です。

広大な領土を誇る大清国には三言語(漢字アラビア文字満州文字)併用の乾隆通寶があります。

日本で多言語併用貨幣が現れたのは幕末開港後のこと徳川幕府初の紙幣(慶應三年)には5liioと書かれています。

「泰平の眠りをさます上喜撰たった四盃で夜も寝られず」、アメリカの強腰外交で振り回される我が国。

江戸幕府も現政府も同じように見えます。



親睦活動委員会

例会場当番

3月25日(火) 瀧川・大山

4月 1日(火) 衣笠・下山

幹事報告

1) ☆他クラブニュース

例会変更のお知らせ

高砂RC ◇4/11(金)高砂青松RCとの合同献血例会

於：高砂市文化会館駐車場

◇4/18(金)移動例会 於:「霧の恵」トマト栽培所

高砂青松RC ◇3月26日(水)移動例会(移設式) 於:高砂向島公園

◇4月 2 日(水)→4月 6 日(日)春の家族移動例会 於:大阪

◇4月9日(水)→4月11日(金) 11:00~15:30

高砂RCとの合同献血例会 於:高砂市文化会館駐車場

◇4月16日(水)休 会〔定款第7条第1節(d)〕

◇4月30日(水)休 会〔定款第7条第1節(d)〕

加古川中央RC ◇4月24日(木)夜例会 午後6時30分～

◇5月 1 日(木)休 会〔定款第7条第1節(d)〕

◇5月29日(木)夜例会 午後6時30分～

◇6月19日(木)最終例会 午後6時～ 於:加古川プラザホテル2階

加古川平成RC ◇3月28日(金)観桜例会のため場所変更 於:京都方面

◇4月11日(金)例会取消〔定款第7条第1節(d)〕

◇4月25日(金)例会取消〔定款第7条第1節(d)〕

2) 加古川市より「日岡山公園ぼんぼり設置場所抽選結果について」の文書をいただいておりますので回覧します。

3) ハイライトよねやまを配布しております。

出席委員会

☆ 今 週 会員数70名 出席37名 出席免除12名 欠席21名

☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数71名 出席57名 出席免除7名 欠席7名

プログラム委員

本日3月18日(火)	3月25日(火)	4月1日(火)	4月8日(火)
例会変更 (時間場所変更) イブニング例会 午後7時～8時30分 於;Bar 1986 KAKOGAWA	フォーラム 「ラグビーを通じた社会貢献と 普及育成活動について」 社会奉仕委員会担当	例会変更 (時間場所変更) お花見例会 午後7時～8時30分 於;オークラ輸送機(株)	調 整 中



RI 次期会長がロータリー会員の力について語る

文：Etelka Lehoczky

国際ロータリーのマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ会長エレクトは、2月10日、米国フロリダ州オーランドで開かれたロータリー国際協議会で、「地球上で最も有能なボランティアのチーム」を拡大する計画の概要を示し、成長、奉仕、つながりを大切にして「よいことのために手を取りあおう」と会員に呼びかけました。

「ロータリーの最大の財産は、その歴史でも、プロジェクトでも、比類のない世界的広がりでもありません。それは会員です」。こう述べたデ・カマルゴ氏は、ロータリーのパートナー団体がロータリー会員の「並外れた献身」を称賛したことに触れ、次のように続けました。「外部団体からそう認められたことで、ロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員であるという私の理解が深まりました」

サンパウロ（ブラジル）のサントアンドレ・ロータリークラブに所属するデ・カマルゴ氏は、新たな視点を模索し、世界の地域社会でのロータリーの奉仕を強化することの重要性を強調しました。その上で、成長のための「不可欠な 3 つの柱」として、革新、継続性、パートナーシップを挙げました。

革新しながらも一貫した伝統を築く

世界がいかに急速に変化しているかを指摘したデ・カマルゴ氏は、革新を呼びかけました。

「テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。……革新こそが、変化するこの世界に私たちが適応する手段なのです」

これを実現する重要な方法の一つは、さまざまなクラブモデルを採用し、推進することだと、デ・カマルゴ氏は言います。衛星クラブ、分野特化別クラブ、法人クラブ、パスポートクラブなど、さまざまな方法でロータリーを体験することができます。自身の妻が 50 人近くの会員を擁する衛星クラブの設立に助力したことに触れ、「将来のロータリー会員はどこにでもいます。私たちは、そこに赴いて彼らを見つける必要があります」と語りました。

また、リーダーシップの継続性の重要性を強調しました。過去 18 カ月間に多くの場所を視察してその必要性を目の当たりにしたデ・カマルゴ氏は、ガバナーが前任者の取り組みを土台とし、プログラムや戦略を中断することなく継続させることが地区の発展につながると話しました。

ナイジェリアでの井戸建設、大洪水の被災者を支援するパキスタンでの取り組み、子どもたちの命を救う医療を提供するインドでのロータリー補助金プログラムを挙げたデ・カマルゴ氏は、次のように述べました。「継続性とは、画一性ではなく、連携です。地区リーダー同士の連携し、自分の”ガバナー年度”を越えてロータリーを思い描けば、長期的な成功の土台が築かれます」

パートナーシップの力

デ・カマルゴ氏は、ロータリー会員は単独でも大きな成果をあげられるが、仲間と協力すれば世界を変えることさえ可能だと述べました。その上で、ポリオ根絶に向けたロータリーの歴史的な取り組みは、ゲイツ財団、世界保健機関、UNICEF (国連児童基金) などのパートナーと連携して行われてきたことを指摘。これらのパートナー団体がなかったら、ロータリーが同様のインパクトをもたらすことはできなかっただろう、と述べました。さらに、入会への関心を高め、クラブを活性化させるために、さまざまな形でのパートナーシップを模索するよう提案しました。

事業者団体、専門職団体、学術機関などと協力することで、ロータリーは職業や考え方の多様性を取り入れながら新会員を増やすことができる、とデ・カマルゴ氏。「奉仕と参画というロータリーの価値観を共有する職業人に働きかけることで、世界でよいことをするロータリーの力を拡大できます」

ロータリーのすべての功績と成長は、究極的に会員にかかっている、と述べたデ・カマルゴ氏は、会員の入会促進と維持に力を入れることで、今後も長年にわたって地域社会に変化を生み出すロータリーの強さと力が高まると語りました。

「分断されがちな世界において、ロータリーは団結と希望の光となります。私たちのプロジェクトは、人種、ジェンダー、性別、思想、経済的背景の異なる人びとを結びつけ、世界でよいことをするという共通の目的で私たちを一つにします。……よいことのために手を取りあえるロータリーを築き、すべての人にとってより明るい未来を実現させましょう」



国際協議会の開会本会議で壇上に立つ
マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ
RI 会長エレクトとデニース夫人。
米国フロリダ州オーランドにて。
2025年2月10日。